

k o k y o s o t s u s h i n

高教組通信 No.32012年10月22日
兵庫高教組書記局URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail : honbu@hyogo-kokyoso.com**本当に学区拡大してよいのか(1)****芦屋市教育委員会主催説明会に19校が参加**

芦屋市教育委員会が主催し、11月24日(土)に「通学区変更にもなう公立高等学校(学年制普通科)合同説明会」が芦屋市民センターで開催されます。同説明会を通して見えてくる問題点を考えてみたいと思います。

これが合同説明会の概要

合同説明会の概要は以下の通りです。

目的 : 県公立交通学区変更により高校の選択の幅が広がることに伴い、各高校がその特色をアピールすることで、対象学年の生徒、保護者が主体的に進路選択することの一助とする。

参加対象 : 保護者、中学1年生(保護者同伴、制服着用)、市民

参加予定校 : 新第1学区の学年制普通科19校
(発表順 ... 神戸北、長田、須磨東、洲本、御影、舞子、伊川谷北、神戸、津名、東灘、星陵、淡路三原、兵庫、伊川谷、夢野台、市神港、神戸高塚、神戸鈴蘭台、市葺合)

説明内容 : 校風 コースや類型 専門学科と連携した教育活動
特色ある行事 部活動 卒業後の進路 その他の魅力・特色

説明時間 : 8分

趣旨説明 : 兵庫県教育委員会阪神教育事務所 神戸市教育委員会
芦屋市校長会 芦屋市PTA協議会(協賛依頼中)

中学一年生に本当に必要な説明会なのか

県教委は、高校の特色化(商品化)を進め、できる限り学区(市場)を拡大し、多くの生徒・保護者(消費者)から選ばれる仕組みさえあれば高校教育は劇的に改善されるという、現実をまったく無視した議論を展開してきました。今回の説明会は、その議論の行き着く先を示したといえます。

具体的には、芦屋市民センター(陳列台)に19の高校(商品)を参加(陳列)させ、そのうえでセールスポイントをアピールさせ互いに競争させようというのです。しかし、中学1年生に説明することにどれほどの意味があるのでしょうか。また、芦屋市の子どもたちが南あわじ市や洲本市の高校をはたしてイメージできるのでしょうか。何よりもこのような説明会を各地で繰り返すことで兵庫の高校教育が本当に良くなるのでしょうか。私たちは、現時点でこのような説明会は必要ないと考えます。

説明会の開催が拡大すれば高校の負担は計り知れないものに

今回の説明会を南あわじ市の保護者が知り、南あわじ市教育委員会に対し「私たちの地域でも芦屋市同様に説明会を開催すべきだ。もし開催しないならば、芦屋市民と比べ私たちは不利益を被ることになる」と主張したらどうなるでしょう。南あわじ市教委主催の説明会に必要性や意義があるかどうかは別にして洲本市、淡路市はもとより神戸市の全公立高校が参加しなければならなくなるのではないのでしょうか。

同様の事態が新第二学区(予定、阪神・丹有地域)で起こればどうなるのでしょうか。9の地教委と29の公立高校学校が対象となります。例えば、尼崎市に29の公立校が集まり、1校5分弱で説明している状況を想像してください。このような説明会がなんと9回も繰り返されることになるのです。高校側の負担は計り知れないものとなります。

学区拡大で地域から「高校が見えなくなる」

現在の学区であれば、中学3年生や保護者は学区内の高校の名前を思い浮かべ、ある程度高校のイメージを持つこともできます。5学区になればどうでしょう。地域から「高校が見えなく」なってしまいます。地域の方々の高校に関する関心や「地元の高校に協力したい、高校を大切にしたい」との思いはどんどん薄れていくでしょう。

地域の子どもは地域で育てる!この方針こそが、これからの地域社会を支え発展させるものです。人口減少、産業の空洞化、そして東京一極集中政策によって地域社会は都市部も含め疲弊の一途をたどっています。このような中で、高校は地域に根ざし、地域に支えられ、そして地域に貢献しながら発展する道筋を探求していく必要があります。地域に根ざした高校の発展の妨げとなる学区拡大は中止すべきです。

高校通学区拡大反対「地域の会」全県交流集会

日時・場所 : 2012年11月11日(日)13:30~16:00 神戸市勤労会館 308

主催 : 「学区拡大」ストップ!アピール署名をすすめる会 保護者・地域の方々に案内して下さい